



今回の「Tanpopo Daily Support News」は、

こちらのAさんについてご紹介します😊

山盛りのケーブルを意気揚々と剥いていきます！

目次

- ・ 法人理事から新年度のご挨拶 <2ページ>
- ・ 「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 61」 <3～5ページ>
～活動に集中しやすい環境を考える～
- ・ 後援会のご案内・2021年度決算報告・編集後記 (編集部) <6ページ>

日々の気付き

理事 長谷川 祥子

この春は、桜が一斉に開花したこともあって、いつになく美しく咲きそろい見ごたえがあった。続いて今はツツジが、公園や通りの生垣に色とりどりに咲き乱れ、あざやかな花のじゅうたんとなっている。のどかにツツジの景色を愛でていると、ラジオから「ツツジを漢字で表す時、なぜ“躑躅”という難しい字をあてたのでしょうか」という問が流れてきた。答えは「この字には、足が止まりたたずんでしまうという意味があり、ツツジにはそれだけの美しさがあるから」との事で、ツツジに対する新知識を得て満足したのであった。

80年近く生きてきたが、まだまだ新しい気付きがあるのはうれしい事なので、辞書を引いたり本を読んだりテレビを見たりして刺激をもらっている。読書にかける時間はたっぷりあるのだからと、年間百冊読破を目指しているのだが、なかなか簡単な事ではなく、今年はまだ30冊にしかない。

最近読み終わった本の「生きのびる からだ」(南木佳史 作)には、私が抱えている問題でもある「物忘れ」について次の様に書かれている。「それまで過剰な記憶をため込んできた脳が一気に初期化されてしまったような感じで喜怒哀楽をナマの感情として保持できるのは、せいぜい一日か二日になった。単に呆けの初期兆候にすぎないのかもしれないが、生きのびるための心身の変容というものは、何ともすさまじいものである」。私の脳も、すでにいっぱい新しい事物が入ってくるすきまが無くなっているのであろうと、自分を納得させているが、初期化されて新しく書き換えられてしまうより、過去の記憶が残っている方が、生きてきた証しがありうれしいとも思っている。

親からもらった からだが丈夫で長生きできている事に感謝して、もう少し生きていこう。これからの世が、ウクライナでの戦争の様子をみていると、どのように変わっていくのか想像もできないが、戦争は絶対にダメ。日本の戦後の75年に重なる私のここまでの人生は、戦争の直接当事者にはならず済んだ幸せな時代であった。若い世代や子ども達の生きていく世が平和であるように祈るしかできない身がもどかしいこの頃である。



松原実乃里

「わたげ」「ふぁず」の利用者のみなさまは、日々、受注作業を中心に活動しています。今回は、表紙写真のAさんの活動エリアを変更したことについて、ご報告させていただきます。

【Aさんについて】

Aさんは、ケーブル解体作業やネジの袋詰め作業を中心に行っています。その中でもケーブル解体作業は、様々な工程を担っています。受注したケーブルは、皮を剥きやすいように決まった長さにカットをします。右の写真は実際にAさんが使用しているケーブルカットの道具です。作業種と目標値は、Aさんと職員で事前に決めているのですが、決めた作業種に合った道具をご自分で判断して用意することが出来ています。このケーブルカット作業を、半日に約500本、多い時には1000本もカットすることが出来ます。

また、ケーブルを決まった長さでカットをすると、端の部分が短いケーブルとして残ります。この端材剥き作業もケーブル作業では大事な工程です。ケーブルが短いと、一方の固定が難しく剥きにくいのですが、この難しさがAさんにとっては集中できるようで、意欲的に行っています。

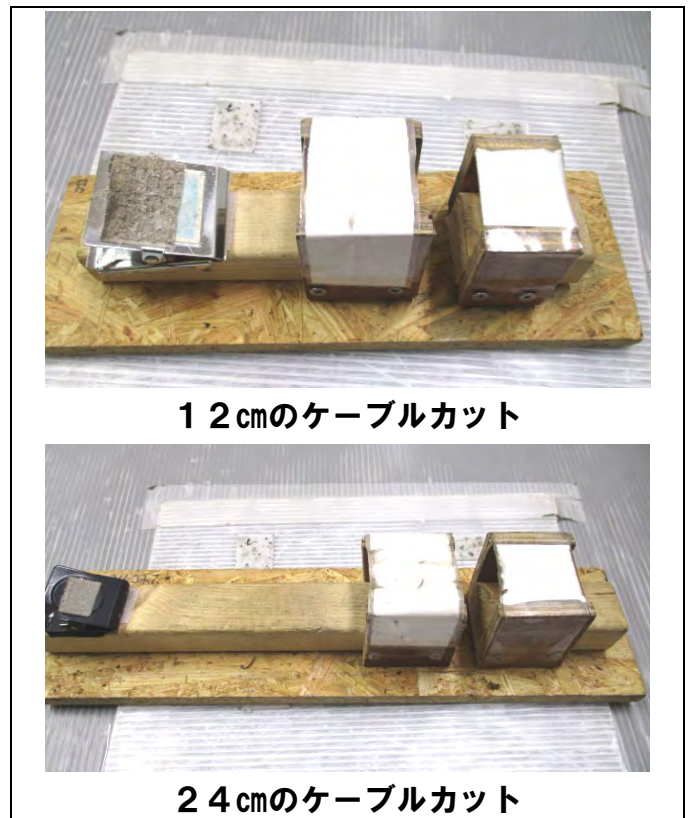
このように、作業に意欲的に取り組む様子が見られる反面、受注された作業量が少ない時や、当日のAさんの状態により作業に集中出来ず、作業室から出て別の場所で過ごしてしまうことや、作業室の床にしゃがみ込む、時には寝転がろうとすることがありました。

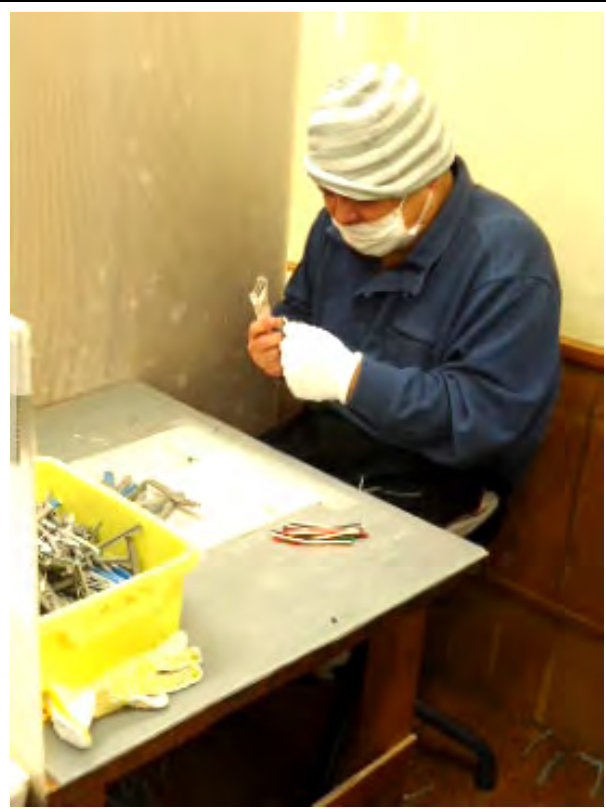
この時、作業開始時間をお聞きすると、Aさんはそれに答え、その時間に開始する時としない時がありました。Aさんには作業終了時間の目安をお伝えしていたので、作業量や難易度がAさんにとって不足しているため、作業終了時間に合わせて行動しているのかもしれないと予測を立て、作業開始時にAさんと職員で決めている作業量を、ご本人を励ましながら多めに調整させて頂いたこともありますが、作業開始時間や意欲は大きく変わりありませんでした。

これらの様子を踏まえ、Aさんがより作業に集中しやすい環境を、もう一度検討することにしました。

【取り組みに向けて配慮した点】

この取り組みを実施するために、まずは現在の作業環境を再評価しました。この時に意識したことは、Aさん自身の環境だけでなく、同じ作業室内にいる利用者のみなさまについて、Aさんが席を移動することでの配慮点や、必要に応じて活動エリアを変えることが出来るか又は現在のままが良いのか等、各担当者と話し合いました。





新しい作業場所での作業中

私たちは日々、朝夕の打ち合わせ等を中心に、職員間でコミュニケーションを取り合い、「わたげ」や「ふぁず」を利用して頂いているみなさまについて、職員全員で情報共有し、支援の方向性を合わせ、利用者みなさまが安心して活動できるよう努めています。その中でも、担当者は、ご家族と連携してご本人のことをより詳しく知り、例えば新たな支援をする時は、担当者を中心に計画を立てて行っています。

このように、Aさんがより活動に集中しやすい環境を模索しつつ、他職員と協力しながら、他のみなさまも安心して活動し続けられるよう配慮しながら準備を進めました。

【新しいレイアウトを考える】

Aさんはこれまで窓際で作業を行っていました。窓際のエリア内で、窓を背にしたり、反対向きにする等、机の向きを変えてみたことはありましたが、作業への集中に変化はありませんでした。窓際での活動の様子を見ていると、窓から空を見ていることが多く、天気を気にしているのかもしれない。天気が気になることで作業に集中しにくいのかもかもしれない

と思うことがありました。そこで、今回のレイアウト変更では、窓際から離れたエリアに活動場所を設けようと考えました。

また、作業する時間と休憩する時間を明確に意識しやすい環境として、これまで作業机のみ用意をし、必要時に小休憩をする形を取っていたスタイルから、作業する場所と休憩する場所と二か所に分け、それぞれの活動エリアを適切な方法を使用することに取り組むことにしました。

次に、レイアウトを変更するにあたって大事にしたことは、Aさんに作業場所を変えることについてどう納得してもらうかでした。そこで、アドバイスをもらいながら考え、場所を移動する際は、Aさんと一緒に机を動かすことにしました。

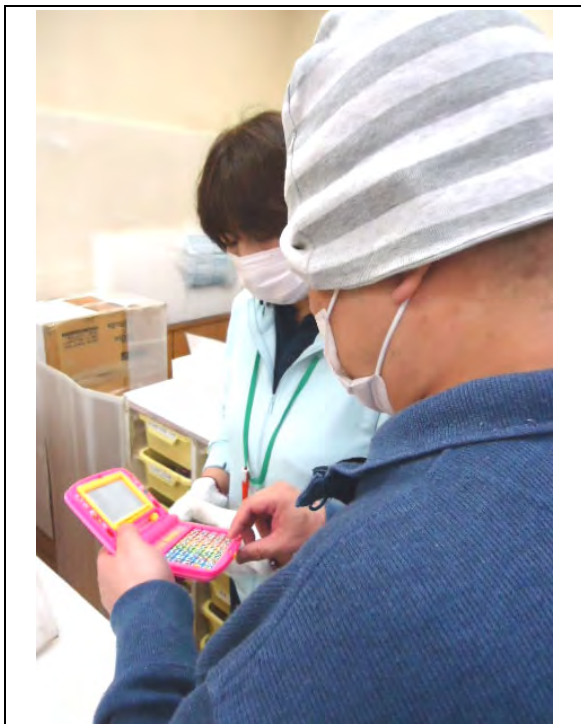
上記のような計画を立て、職員全体で会議を実施、作業室を利用している方全員に、レイアウトが変わることをどう伝えるか、当日のご本人たちと職員の動きの確認等をしていきました。

【ご本人と一緒にレイアウト変更】

活動場所のレイアウト変更は、新しいことのスタートとして分かりやすいように月曜日からとし、その前の週末に、ご本人に伝達することになりました。伝達する日の朝にお話があることを伝え、日中に職員からレイアウト変更についての図案を見せて活動場所が変わることを伝えました。その日の作業終了後、Aさんに「お引越し」という言葉を使って、自分の机を新しい活動場所に動かすことをお伝えし、結果として、活動場所が変更することについて拒否をする様子もなく、スムーズに机を動かすことが出来ました。



**作業終了後は、
ご自分で掃除をしています。**



文字盤を使用して、「ラジオ聴きます」

【レイアウト変更当日の様子】

いよいよレイアウト変更当日です！Aさん以外の利用者のみなさまには、変更初日の朝、作業室に入る前に、新しくなった室内の写真をプリントにしてお見せし、さらに実際のそれぞれのエリアや机に、みなさまの顔写真やお名前を貼って、環境の変化をお伝えしました。その結果、新しい場所でも落ち着いて活動していただけたようでした。

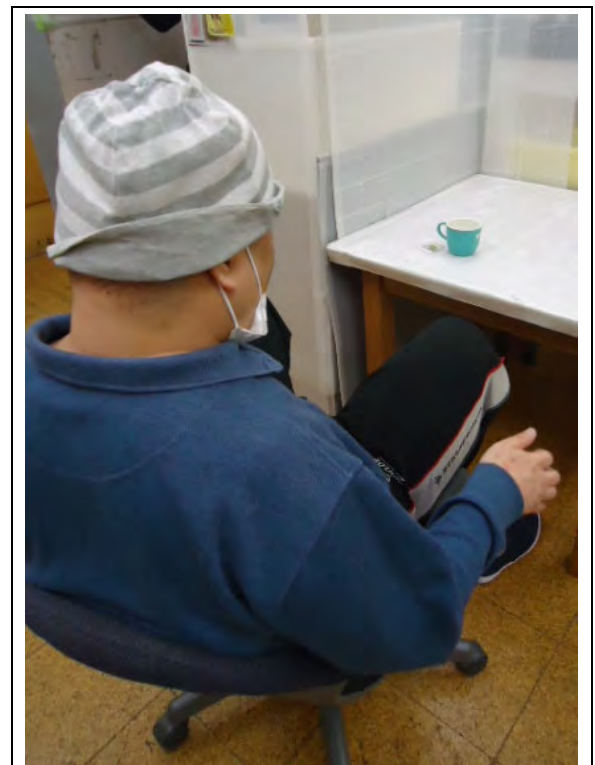
Aさんは、一回目の作業途中に、空いているスペースにしゃがもうとする様子がありましたが、椅子に座って作業を行うことを再度お伝えすると、以降は着席した状態で作業を最後まで行いました。休憩の机を使用することは、以前から、作業終了後に麦茶を飲む流れがご本人にあったことから、『麦茶飲みます』というカードを職員に差し出して頂き、職員が麦茶を用意する間に休憩机に座って待ってもらう新しい流れを作りました。この流れにより、休憩をする時は、休憩机を使用することを意識して頂けるようにしました。

お伝えして以降、自ら麦茶飲みますカードを職員に差し出し、その後休憩机に座ることが出来ていました。また、一日の作業終了後、ラジオを聴いて過ごすのですが、レイアウト変更初日から、文字盤を使用して「ラジオ」と職員に教えて下さり、その後自ら休憩机に移動し、ラジオを聴く時間を楽しむ様子から、作業と休憩の場所を使い分けて過ごすことが出来ていると評価しました。

【最後に】

今回の取り組みを通して、日々の利用者のみなさまの様子や変化を観察すること、記録に取ることの大切さを感じました。以前の活動エリアで集中できない理由を、外の空模様が気になっているのかもしれないと推測出来たのは、Aさんが活動に集中していない時の様子を細やかに観察し、職員間で共有したり記録に残していたからです。Aさんが活動に集中していない時に、職員がすぐに作業を促すという対応を取っていたとしたら、その場では、Aさんは作業を再開し、一日の作業時間は増えたかもしれません。しかしそれは、職員の合図がないと作業を始められないことに繋がるかもしれない。そもそもAさん自身が「よし、作業をやるぞ」と、自分の意思で作業をしなければなんの意味もありません。もしかしたら、私たちが汲み取れないだけで、Aさんは日々の自分の体調や状態をきちんと把握して、自分にムリのない日課を組んでいるのかもしれませんが、Aさんはどうして作業に集中できないのかを考え、その解決策を考えてAさんに提案し、説明し、一緒に準備をした、この工程があったことで、Aさんの行動に変化が生まれたのだと思います。

今後も日々の記録や利用者の様子から必要な環境を追求し、より良い環境の中で生活が出来るよう支援していきたいと思えます。



リラックスして休憩中！

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会

《2021年度決算報告》

たんぽぽの郷 後援会

昨年度、皆様からいただきました会費については、下記のとおりのでご報告申し上げます。

(自2021年4月1日～至2022年3月31日)

〈収入の部〉

〈支出の部〉

項目	決算額	項目	決算額
前期繰越金	914	寄付金(わたげへ)	390,000
会費	393,000	振込手数料	3,461
		次期繰越金	453
合計	393,914	合計	393,914

以上 会計 常田ちよ子



2021年度収支決算書及び関係帳簿・領収書を監査したところ、報告に相違ないこと証します。

会計監査 對比地祐子



高橋正子



皆様よりの会費等の決算につきましては上記の如くご報告申し上げます。



編集後記

先月、永年勤続表彰が行われました。いつの間にかこれほどに月日が経つと驚きました。経験に見合う働きが出来るよう、一層身を引き締めて、新年度も支援に邁進していきたいと思ひます。

今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

編集部 庄司



社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp